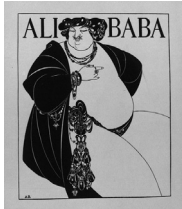


展示室 1 小特集：ビアズリーの世界



オーブリー・ピアズリー
『アリ・ババ』

百花繚乱の 19 世紀末芸術において、イギリス生まれのオーブリー・ピアズリー（1872-1898）は「デカダンスの神童」として短くも類い稀な才能を開花させた異色の芸術家でした。ピアズリーの怪しくも魅力的な美的世界は、幾多の書物、あるいは当時創刊が相次いだ美術雑誌を通じて繰り広げられます。繊細で装飾性にあふれた線と大胆で比類ない黒と白のコントラストが織りなすピアズリーの独創的な作風は、ヨーロッパの芸術家のもとより、日本の画家たちにも大きな影響を与えました。今回は、小特集として鬼才と評されたピアズリーの独創的な作品の数々を紹介します。

作品名	制作年	作品名	制作年
オーブリー・ピアズリー			
おまえの口に口づけしたよ、ヨカナン（オスカー・ワイルド『サロメ』挿絵）	1893	メッサリーナ（ユヴェナリス著『6 番目の風刺』挿絵）	1895
エミール・ゾラの失望	1893	『ピエロ・ライブラリー』表紙デザイン	1896
レジャーヌ	1893-4	『ピエロ・ライブラリー』表紙見返しデザイン	1896
J.ラムステン・プロバートの蔵書票（『イエロー・ブック』第 1 巻挿絵）	1893	『ピエロ・ライブラリー』裏表紙見返しデザイン	1896
『イエロー・ブック』ポスターデザイン	1894	『ピエロ・ライブラリー』タイトル・ページデザイン	1896
『イエロー・ブック』第 1 巻タイトル・ページデザイン	1894	モスカ（アーサー・シモンズ『ディエップ：1895 年』挿絵）	1896
夜景（『イエロー・ブック』第 1 巻挿絵）	1894	アリ・ババ（『40 人の盗賊』（未出版）表紙デザイン）	1896
『イエロー・ブック』第 2 巻表紙デザイン	1894	『50 葉素描集』の表紙デザイン	1897
『イエロー・ブック』第 2 巻表紙タイトル・ページデザイン	1894	『イエロー・ブック』ポスターデザイン（未使用）	
『イエロー・ブック』第 4 巻表紙デザイン	1894	自画像	
『イエロー・ブック』第 5 巻表紙デザイン	1895	風刺画	
フローレンス・ファー著『踊るファウヌス』表紙デザイン	1894	※上記作品の技法：ラインブロック・紙（ブルー版）	
ドストエフスキー著『貧しき人々』タイトル・ページデザイン	1894	『アーサー王の死』	1893
グラン・アレシ著『イギリスの野蛮人』表紙デザイン	1895	（アーサー王、探し求めていた獣に出会う）フォトグラヴィール	
「セット・オブ・オッド・ヴォリュームズ」喫煙会招待状デザイン	1895	（グウェネヴァー王妃、五月祭に馬を駆る）ラインブロック	

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60 頃	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス

展示室 2 静物を描く



中村 彝
『朝顔』

静物画とは動かないものを描いた絵画のことで、古代の壁画などを除けば 17 世紀ころのオランダで始まったといわれています。描かれた対象には、花や果実、食器など、わたしたちの生活に身近なものが多くみられます。当初は精密な写実表現が主流でしたが、後期印象派やフォーヴィスム、キュビズムなどが台頭すると、対象を分解や合成などをした新傾向の静物画も現れてきます。

今回は近代の日本人画家による静物画を展示します。明治期の原撫松の小品、セザンヌの影響が色濃い曾宮一念らの作品、夭折の画家・中村彝の代表作とともに、郡山市在住の佐藤昭一のキュビズム風静物画もあります。また、古殿町出身の日本画家・常盤大空は、埴輪などの出土品や文物を画面上に自由に配置して描く「モンタージュ画法」を用いて日本画界に新風を吹き込みました。斎藤清らの版画の静物表現もなかなか個性的です。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
原 撫松	みかん	1892 (明治 25)	水彩・紙
原 撫松	菊	1892～94 (明治 25～27) 頃	水彩、鉛筆・紙
原 撫松	包丁		水彩・紙 原優子氏寄贈
高橋勝蔵	桃と葡萄	1909 (明治 42) 頃	油彩・キャンバス
伊藤快彦	夏の静物		油彩・板
曾宮一念	静物	1918 (大正 7)	油彩・キャンバス 武田香栄子氏寄贈
林 倭衛	机上のリンゴ	1918 (大正 7)	油彩・板
熊岡美彦	菊と檸檬	1922 (大正 11)	油彩・キャンバス
中村 彝	朝顔	1923 (大正 12)	油彩・キャンバス
山口 薫	静物	1926 (大正 15) 頃	油彩・キャンバス
林 武	静物	1943 (昭和 18) 頃	油彩・キャンバス 宮崎利一氏寄贈
佐藤昭一	自分と石膏とマンドリンと壺	1948 (昭和 23)	油彩・キャンバス 佐藤昭一氏寄贈
高間惣七	静物	1937 (昭和 12)	油彩・キャンバス
常盤大空	古代頌	1960 (昭和 35)	岩絵具・紙 常盤房子氏寄贈
常盤大空	殷賦考	1962 (昭和 37)	岩絵具・キャンバス
川上澄生	花	1936 (昭和 11)	木版・紙
斎藤 清	HANIWA (2)	1951～54 (昭和 26～29) 頃	木版・紙
浜口陽三	スペイン風油入れ	1954 (昭和 29)	メゾチント・紙
北川民次	シクラメンを主題にしたブーケ	1964 (昭和 39)	リトグラフ・紙
福田利秋	つば	1971 (昭和 46)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
駒井哲郎	花とレモン	1974 (昭和 49) 頃	モノタイプ・紙
草間弥生	かぼちゃ	1985 (昭和 60)	エッチング・紙

展示室3 戦中戦後のレアリスム



高山良策
『こども』

1937 (昭和 12) 年に勃発した日中戦争により、日本は 1945 (昭和 20) 年までの戦争状態に入りました。そんな中、ヨーロッパから紹介されたシュルレアリスムなどの前衛美術運動に、若い作家たちは創作意欲を掻き立てられていました。しかし戦況が厳しくなると、前衛美術は戦意高揚に適さない、などの理由で非常に厳しく規制されていきます。

戦後、数多くの作家たちが荒廃と混乱の中で苦しむ市井の人々の姿を描きます。戦争によって自己表現ができなかった時代を経た作家たちにとって、貧しい家族や労働者たちを描くことは、社会における自己の存在意義を問う、あるいは確認するという切実なものだったのです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
平澤熊一	発芽	1938 (昭和 13) 頃	油彩・板 平澤三之助氏寄贈
鎌田正蔵	魔の山	1938 (昭和 13) 頃	油彩・キャンバス 鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	白日夢	1938 (昭和 13)	油彩・キャンバス 鎌田正蔵氏寄贈
早瀬龍江	營	1940 (昭和 15)	油彩・キャンバス
菊地養之助	牛と男	1962 (昭和 37)	岩絵具・紙 菊地一郎氏寄贈
菊地養之助	鳩のいる家族	1962 (昭和 37)	岩絵具・紙 菊地一郎氏寄贈
菊地養之助	母と子	1962 (昭和 37)	岩絵具・紙 菊地一郎氏寄贈
高山良策	こども	1954 (昭和 29)	油彩・キャンバス 西村祐次氏寄贈
勝呂 忠	母と子	1955 (昭和 30)	油彩・キャンバス 勝呂忠氏寄贈
鎌田正蔵	飢える人	1952 (昭和 27)	油彩・キャンバス 鎌田正蔵氏寄贈
佐藤昭一	夏期休業 (ガラス工場にて)	1953 (昭和 28)	油彩・紙
吉井 忠	地の群れ	1963 (昭和 38)	油彩・キャンバス
瑛 九	作品 1	1935 (昭和 10)	水彩・紙
瑛 九	作品 2	1935 (昭和 10)	水彩・紙
瑛 九	作品 3 「方向」	1936 (昭和 11)	デカルコマニー・紙
瑛 九	作品 4		クレヨン・紙
瑛 九	作品 5	1939 (昭和 14)	エアブラシ、鉛筆・紙
瑛 九	作品 6	1939 (昭和 14)	エアブラシ、木炭・紙
瑛 九	作品 7 「会話」	1939 (昭和 14)	エアブラシ、木炭・紙
瑛 九	作品 8	1939 (昭和 14)	エアブラシ、木炭・紙

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
瑛 九	作品 9	1939 (昭和 14)	木炭・紙	
瑛 九	作品 10	1939 (昭和 14)	エアブラシ、水彩・紙	
加藤太郎	“JEU D'OBJET 1”	1945 (昭和 20)	木版・紙/本	日向綾氏寄贈
加藤太郎	“JEU D'OBJET 2”	1945 (昭和 20)	木版・紙/本	日向綾氏寄贈
加藤太郎	木の葉		木版・紙	寄託作品
加藤太郎	木の葉 (下絵)		鉛筆・紙	寄託作品
杉原正巳	暑中見舞	1937 (昭和 12)	木版・紙	吉留直輝氏寄贈
杉原正巳	愛書票	1943 (昭和 18)	木版・紙	吉留直輝氏寄贈
	『一木会豆版画帖 博物譜』	1950 (昭和 25)	木版・紙/本	勝呂忠氏寄贈
菊池一雄	自刻像	1947 (昭和 22)	ブロンズ	
佐藤忠良	群馬の人	1952 (昭和 27)	ブロンズ	
柳原義達	黒人の女	1956 (昭和 31)	ブロンズ	

展示室 4 イギリス現代版画



デイヴィッド・ホックニー
『放蕩者のなりゆき』より「到着」

今年度最後の企画展「ルーシー・リー展」開催に合わせてイギリス現代版画をご紹介します。戦後のロンドンで活動を続けたルーシー・リーと同時代に活躍した作家たち。ポップ・アートの先駆けとなったサー・エデュアルド・パオロツィやリチャード・ハミルトン、パトリック・コールフィールド、それに続くデイヴィッド・ホックニー。また静謐でありながら表情豊かな抽象作品で版画家として活躍したアラン・グリーン、ヘンリー・ムーアとケネス・アーミテイジというふたりの彫刻家の版画作品を加え、イギリスの現代美術の豊かな世界を版画でご覧いただけます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
デイヴィッド・ホックニー	『放蕩者のなりゆき』より 2点	1961-63	エッチング、アクアチント・紙/ポートフォリオ	
デイヴィッド・ホックニー	『六つのグリム童話 (C版)』より 燃える二つの死体 (怖さを体験するために出かけた若者の話) ラブソツェル	1969-70	エッチング、アクアチント、ドライポイント・紙 エッチング、アクアチント・紙	
エデュアルド・パオロツィ	『零エネルギー実験電池』 Vol.1	1970	リトグラフ、シルクスクリーン・アクリル/ポートフォリオ	
エデュアルド・パオロツィ	『ムーンストリップス・エンパイア・ニュース』 Vol.1	1967	シルクスクリーン・紙 (一部アセテート) /ポートフォリオ	
パトリック・コールフィールド	『ジュール・ラフォルグの詩 (A版)』	1973	シルクスクリーン・紙	
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピース B	1976	リトグラフ・紙	
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピース B、クレヨン習作	1976	リトグラフ・紙	
ケネス・アーミテイジ	立っている人物	1971	フォトエッチング・紙	カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミテイジ	リッチモンド・オーク	1975	エッチング・紙	カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミテイジ	リッチモンド・オーク (二本の木)	1977	エッチング・紙	カサハラ画廊寄贈
ヘンリー・ムーア	『スカルプチャー・アイデア』	1980	エッチング、アクアチント・紙/ポートフォリオ	
アラン・グリーン	金色の上の黒	1991	エッチング、アクアチント・紙	
アラン・グリーン	赤に向かう白のアンゲル	1992	エッチング・紙	カサハラ画廊寄贈

展示室 4 イギリスの工芸



クリストファー・ドレッサー
『色絵花模様大皿』

イギリスの近代工芸史において先駆的役割を果たした、クリストファー・ドレッサー。近代化の進むイギリスにおいて機械生産も視野に入れた彼のデザインは、傑出した革新性を備えています。

ドレッサーは、日本をはじめ、ペルー、エジプト、中国などの伝統的な作品から影響を受け、さらに植物形態学の研究から得た知識を活かしてオリジナリティのあるデザインを生み出しました。また、陶磁器や金属器には、日本の工芸品に見られる技法も取り入れています。さまざまな要素を吸収した多彩な作品をどうぞお楽しみください。

あわせて、日本との関わりが深く、ルーシー・リーとも交友のあったバーナード・リーチの作品を展示します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
バーナード・リーチ	北京の前門	1918年	ソフトグラウンドエッチング・紙
バーナード・リーチ	家	1912年	エッチング・紙
バーナード・リーチ	山水	1968年	墨・紙
バーナード・リーチ	立杭		コンテ・紙
バーナード・リーチ	鉄絵碗		陶器
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1961年	磁器
クリストファー・ドレッサー	緑釉蓮花刻文皿	1879～82年頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	彩釉台鉢	1879～82年頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	うに形容器	1879～82年頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	彩釉刻文把手付扁壺	1879～82年頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	青釉水差	1879～82年頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	彩釉水差	1879～82年頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉アカンサス型手付壺	1892～95年頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	彩釉和風花瓶	1879～82年頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵蝶花模様瓢箪形壺	1892～95年頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花鳥模様壺	1892～95年頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ、黒檀把手（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（青海波）	1879～80年	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	ダブル・バスケット（楕円形）	1880年	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	ミルク入れ	1880年	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	三角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	草花象嵌模様足付皿		銀、銅、真鍮
クリストファー・ドレッサー	孔雀象嵌模様円形皿		銀、銅、真鍮
クリストファー・ドレッサー	色絵椿文龍花瓶（一対）	1886年	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様皿とボウルのセット	1886年	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様大皿	1886年	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵金彩竹梅文水差		磁器
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩花模様水差		磁器
クリストファー・ドレッサー	金彩筒型三足花器		磁器
クリストファー・ドレッサー	金銀彩植物模様タイル		磁器
クリストファー・ドレッサー	ゴシック模様タイル（5枚）		磁器
クリストファー・ドレッサー著	『デザイン研究』	1874～76年	本

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階				
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963（昭和38）	セメント	細川明子氏寄贈
笠置季男	躍進	1958（昭和33）	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
●2階展示ロビー				
清水多嘉示	フランスの女	1927（昭和2）	ブロンズ	
柳原義達	女の首	1958（昭和33）	ブロンズ	
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917（大正6）	大理石	
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡2		陶器	大方竜子氏寄贈
●前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	